

消防団たずね歩き

築六十数年の詰所と共に

中央消防団第2分団の詰所は、東西に長い管轄区域の中心より少し西側寄り、阪急神戸線春日野道駅の北西約300mほどの神若公園の中にあり、昭和29年に建てられました。

消防団詰所としては、その頃には珍しい一戸建ての堂々とした木造作りで、他分団からは羨ましがられたそうです。内部は6畳の座敷と広々とした土間からなり、テーブルや椅子が並べられ、器具置場も十分に確保されています。私が入団した頃の年末警戒には、石炭ストーブが赤々と焚かれており、寒い深夜のパトロールを終えて部屋に入ると、完全に冷え切った身体が一遍に火照ってしまうほど暖房が効いていました。

その詰所も阪神・淡路大震災では出入口が傾き、壁には多くのひび割れが生じるなど大きな損害を被りました。震災当日、詰所に駆け付けると、既に大勢の人々が詰所へ避難してきておりました。私が「なぜここに来たのか」と尋ねると、「消防団の詰所にいると安心や」と答えられたので、「消防団は頼りにされているんやなあ」と思い感激したものです。

その詰所も消防局のご尽力により改修工事がされて、観音開きだった器具庫の扉は

シャッターになり、出入口や壁のひび割れも修繕され、外壁もきれいに塗装されて、まるで新築されたようになりました。

さて、第2分団の活動についてですが、災害出動はもちろん、各種訓練や火災予防運動、秋祭りの警備など地域の諸行事にも積極的に参加しております。また、中堅若手の団員には救急インストラクターの資格を取得させ、特に市民救命士講習の指導に力を入れております。

消防団活動は、我々消防団員のみでできるものではありません。消防署のご指導や、防コミなど各種団体との連携や協力がなければ成り立ちません。

我々第2分団は、この愛着ある詰所と共に、これからも地域の安全・安心のために全団員一丸となって消防団活動に励んでまいります。



中央消防団第2分団詰所



器具置場も完備

(中央消防団第2分団 川邊良一)



地域に根付いた消防団を目ざしています!

～地域住民の安全・安心を確保するために～



神戸市消防局
神戸市消防団

